

法人名・事業所名

社会福祉法人 博寿会  
特別養護老人ホーム やすらぎの里

職種／発表者

機能訓練指導員／判治真也 ・ 生活相談員／黒木貴哉

## ■ 取り組んだ課題

- ・ 介護の質向上や職員の身体を守る取り組みとして、福祉用具の導入や研修を行ってきた。
- ・ 職員内の習熟度の差や指導後の理解度にずれが生じる場面があった。
- ・ 今回、福祉用具の使い方の指導方法について検討した。

## ■ 具体的な取り組み

### ・ 対象者

当施設併設の特別養護老人ホームの介護・看護職員38名

### ・ 取り組みの具体的な手法・方法

#### STEP 1 原因分析・問題点抽出

- ・ 移乗方法は、立ち上がりが必要な利用者に対して、抱え上げる介助を行っており、職員は介助量が多いことを負担に感じていた。
- ・ 介助する職員によって、移乗を行う時に利用者の緊張を上げてしまう。
- ・ 職員の知識や技術、体格などで介助方法に差が生じていた。
- ・ 指導方法は、動画視聴や講義形式で行っていた。  
指導後は動画を見返すことができるようにパソコン上に張り付けていた。
- ・ 動画や講義は受動的な学習方法とされており、学習した内容の定着率が5～20%とされている。
- ・ 動画視聴や講義形式は、職員の知識や技術の差を助長させてしまう可能性がある。

#### STEP 2 計画

- ・ 移乗方法は、スライディングシート・トランスファーボードを使用した方法に変更した。
- ・ 指導方法を学習内容の定着率が高いとされる「デモンストレーション」、「自ら体験する」に変更した。

#### STEP 3 実施

- ・ 機能訓練指導員から、職員の小集団（4-5名）に対し、1日30分間、方法・リスク管理について、実践を交えて指導した。
- ・ 指導期間は4週間を目安に3回以上反復練習できるように、スケジュール調整しました。

## ■ 活動の成果と評価


- ・ 今回の取り組み後、アンケートを実施した。
- ・ 職員からは「身体が楽になった」、「体格が大きい方でも移乗が楽に行えるようになった」利用者からは「身体が楽になりました」などの意見が上がった。
- ・ 一方で、「やり方が難しかった」との意見が上がった。

## ■ 今後の課題

- ・ 今回の取り組みは、スライディングシート・ボードを対象としていたが、他の福祉用具の導入も行っていきたい。

## ■ 参考資料など

井川浩輔：経験の円錐とアクティブ・ラーニング。琉球大学・経済研究。93: 19-36,2017.



# 移乗動作における多職種への 介助指導の取り組みについて ～ノーリフティングを目指して～

やすらぎの里 判治真也 黒木貴哉

# 社会福祉法人 博寿会

愛知県海部郡飛島村にある32年続く社会福祉法人  
特別養護老人ホーム(90床),短期入所生活介護(10床)

介護職員 (主任1名 副主任 3名 リーダー 3名)	24名	
看護職員 (主任 1名)	5名	
技能実習生 (介護職員)	9名	他



# 取り組んだ内容

- ▶ 介護の質向上や職員の腰痛予防として、福祉用具の導入や研修を行ってきた。
- ▶ 職員内の習熟度の差や指導後の理解度にずれが生じる場面があった。  
性別, 年代, 体格, 国籍 など

福祉用具の使い方の指導方法について検討した

# 具体的な取り組み

## 【課題】

福祉用具の導入や研修の習熟度/理解度に差が出てしまう

移乗動作時に職員の身体負担が大きい

スライディングシートを利用した移乗方法の定着を図りたい

## 【対象者】

当施設の特別養護老人ホームの介護・看護職員38名

# 取り組みの流れ

**STEP 01**

原因分析  
問題点抽出

**STEP 02**

計画

**STEP 03**

実施

# STEP 01 原因分析・問題点抽出

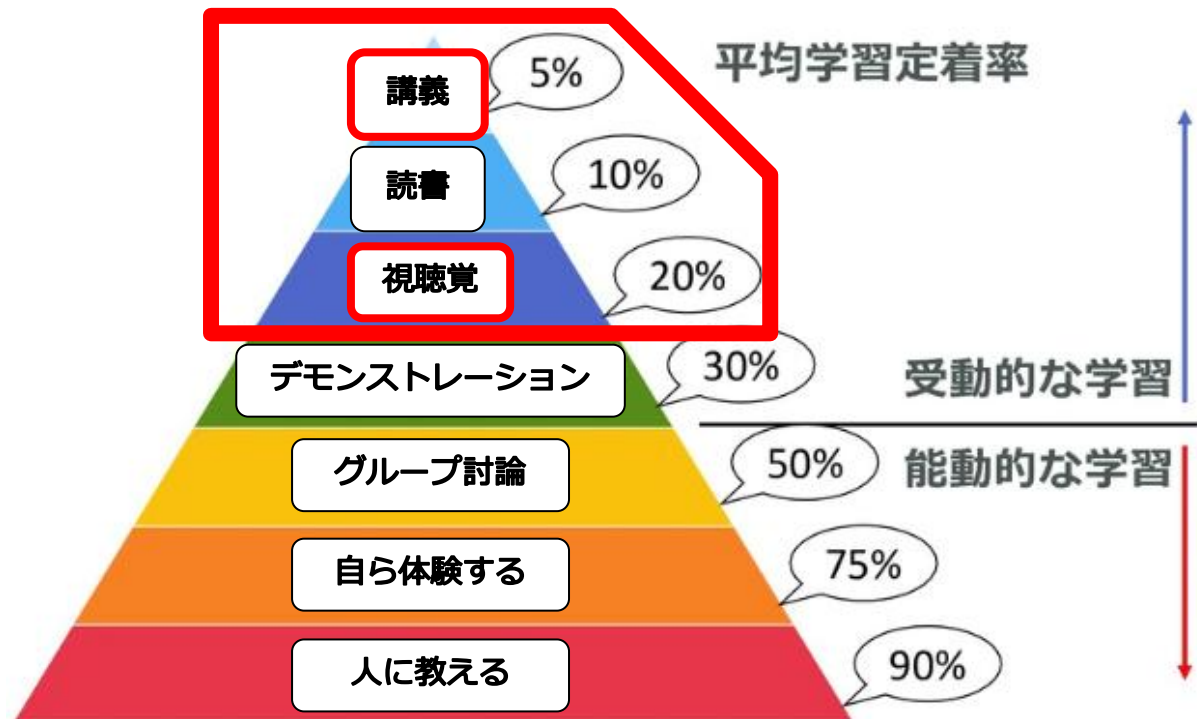
## 福祉用具の導入や研修の習熟度/理解度に差が出てしまう原因は何か？

【従来，当施設で行ってきた方法】

	内容	問題点
① 形式	動画視聴/講義	最適な指導方法か？
② 実施回数	1回	指導回数が足りているか？
③ 研修後のフォロー	現場で繰り返し指導	現場での指導頻度が足りているか？

# STEP 01 原因分析・問題点抽出

① 「動画視聴や講義」は指導方法として適切か？



職員

「意欲」

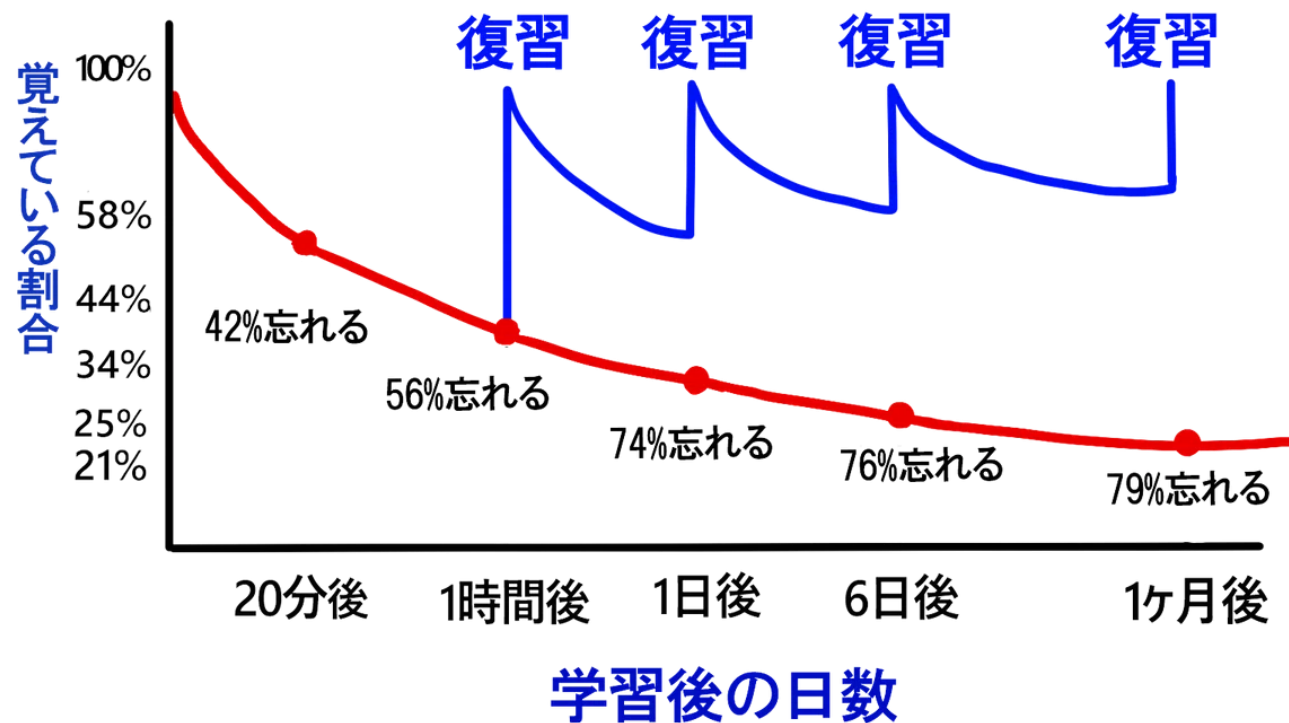
「技術」

「知識」

より定着率が高い  
指導方法を  
採用する必要がある

# STEP 01 原因分析・問題点抽出

## ② 指導回数が足りているか？



1回のみでは忘れやすい

間違った記憶が定着する

繰り返し反復学習できる

環境・設定

# STEP 01 原因分析・問題点抽出

③ 現場での指導頻度が足りているか？

従来

指導者

介護

看護

現場で学ぶ  
機会が少ないか

今後

指導者

主任 副主任  
リーダー

介護

看護

現場で指導できる  
スタッフを増やす

# STEP 01 原因分析・問題点抽出

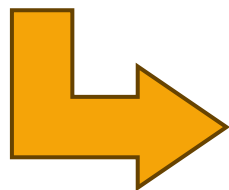
## 【指導方針】

	内容	
① 形式	動画視聴/講義	<b>最適な指導方法か？</b> →より定着率が高い指導方法を 採用する必要がある
② 実施回数	1回	<b>指導回数が足りているか？</b> →繰り返し反復学習できる 環境・設定にする
③ 研修後のフォロー	現場で繰り返し指導	<b>現場での指導頻度が足りているか？</b> →現場で指導できるスタッフを増やす

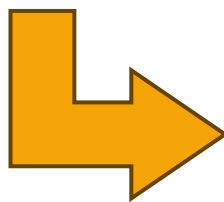
# STEP 01 原因分析・問題点抽出

## 移乗動作時に職員の身体負担が大きい

なぜ？



立ち上がりが困難な利用者に対し  
抱え上げる介助を行っていた



利用者

身体に力が入りやすい

職員

腰への負担が大きい

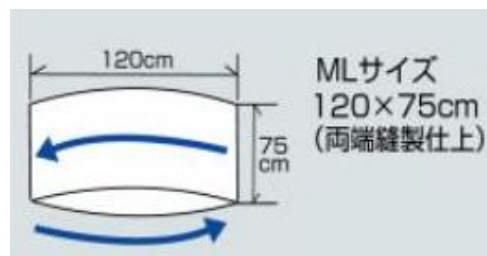
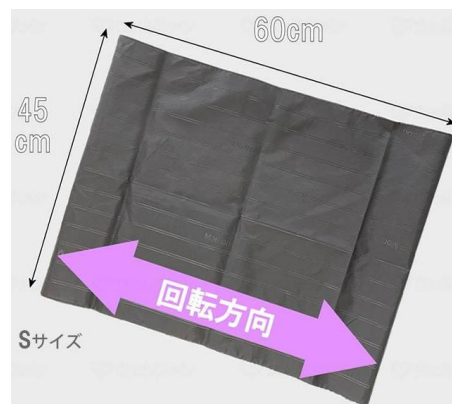
**抱え上げる介助を改善する必要がある**

## STEP 02 計画

- ▶ 移乗方法は、スライディングシートを使用した方法を採用した

### スライディングシート

介助が必要な方の下に敷き、  
シート同士で滑らせる事で楽に身体を動かせる

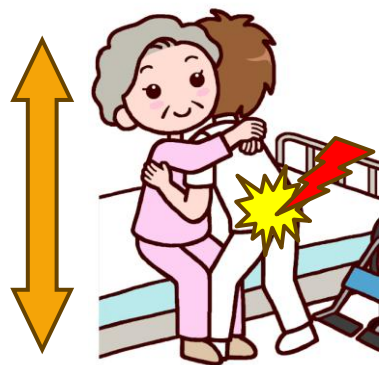


筒状の構造



## STEP 02 計画

### 抱え上げる移乗



★持ち上げる



腰をひねる  
向きを変える

### スライディングシートを使うと・・・



体を回転  
シートの上を移動

持ち上げがなく  
水平移動する為  
身体の負担が少ない

# STEP 02 計画

## 指導方法

	内容	変更点
① 形式	動画視聴/講義	「デモンストレーション」 「自ら体験する」
② 実施回数	1回	3回以上
③ 研修後のフォロー	現場で繰り返し指導	リーダー→他の職員の順に伝達

## STEP 03 実施

- ▶ 機能訓練指導員から、**主任・副主任・リーダー（7名）**に対し、**方法・リスク管理**について、**実践を交えて指導した。**
- ▶ 機能訓練指導員から、**職員の小集団（4-5名）**に対し、**1日15～30分間、方法・リスク管理**について、**実践を交えて指導した。**
- ▶ 指導期間は**4週間を目安に3回以上反復練習**できるように、**スケジュール調整**を行った。

# 活動の成果と評価

- ▶ 今回の取り組み後、アンケートを実施した。
- ▶ 職員から  
「身体が楽になった」  
「体格が大きい方でも移乗が楽に行えるようになった」  
利用者から  
「楽になりました」                      などの意見が挙がった。
- ▶ 一方で、「やり方が難しかった」との意見が挙がった。

# 今後の課題

- ▶ 今回、指導方法を工夫し、スライディングシートを導入して移乗動作の身体負担を軽減するに至った。
- ▶ 今後、他の福祉用具の導入も行っていきたいと考える